

- 1 概要 ○日時：平成15年10月28日 第5時間目 14:05～14:50
○対象：庄原市立東小学校 第3学年 29名
○場所：庄原市立東小学校 音楽室

2 題材名 「チャレンジ！日本のふし」

3 題材の指導目標

- 「日本のふし」に興味・関心をもち、意欲的に創作・表現活動に取り組むことができる。（音楽への関心・意欲・態度）
- 「日本のふし」の特徴を感じ取り、旋律のつくり方や音の組み合わせ方を工夫することができる。（音楽的な感受や表現の技能）

3 題材設定の趣旨

(1) 題材観

本題材は、「わらべうた」の構成音を使って旋律を創作し、表現する活動を通して、日本の音楽に対する感性を豊かにし、我が国の伝統音楽のよさを大切にしていこうとする態度を培うことをねらいとして設定した。

新学習指導要領は、国際社会において自己の役割と責任を自覚し、それを主体的に果たしていくことができる日本人の育成を目指して改訂された。小学校音楽科においても、その基礎となる、自ら考え、判断し行動できる資質や能力を育成することが求められている。

これらの能力を育成するためには、我が国の音楽文化や伝統に関心をもつとともに、それが生活の中でどのように親しまれてきたのかを体感し、尊重しようとする態度を育てる必要があると考える。

日本の音楽には、現在の教科書教材のほとんどを占める長調・短調の旋律とは異なる、日本に伝統的に伝わってきた様々な音階がある。それは、雅楽の笙や琵琶の音階、仏教の五声・七声の声明、「陰旋（都節）」「陽旋（田舎節）」などである。その中でも、児童にとってもっともなじみやすい「わらべうた」は、長二度と短三度の三音構成が多い。日本の音楽に対する感性を豊かにし、我が国の伝統音楽のよさを大切にしていこうとする態度を培うためには、児童の生活空間である地域に伝わるわらべ歌や児童が聞いたことのある「さくらさくら」の合奏曲などの日本の伝統的な音楽を体感させ、日本の音楽を身近に感じさせるとともに、その特徴を実感させることが不可欠であると考え。なぜならば、児童は将来にわたって我が国の豊かな文化を創造する担い手となる存在であり、日本の伝統的な音楽が児童の生活に今もなお生きていると感じさせる必要があるからである。

また、「わらべうた」の構成音を使って旋律をつくって表現する活動は、児童が「わらべうた」や「さくらさくら」の鑑賞で感じ取ったことを、自ら思考し、判断し、表現していく活動となる。このような主体的で創造的な活動を通して、児童に日本の音楽に対する感性を豊かにするだけでなく、我が国の伝統音楽のよさを大切にしていこうとする態度を培うことができると考える。

(2) 児童観

この学年の児童は、第二学年の「遊び歌で遊ぼう」という題材で、地域に伝わるわらべうたを調べる活動を行っている。また、地域の祭りの太鼓打ちに参加したことのある児童が、約三割存在する。しかし、日本の伝統音楽に対する事前の意識調査では、約半数の児童が日本の音楽について「わからない」と答えている。このことから、児童は地域に伝わる音楽を日本の音楽と意識していないことがわかる。

また、音楽科に対する事前の意識調査では、歌唱や器楽の表現活動、創作活動に対して、いずれも9割以

上の児童が肯定的に回答していたが、「日本のふし」を使った創作に対して肯定的に回答した児童は約 8 割であり、他の活動よりも否定的に回答した児童が多かった。その理由の多くは、創作の方法がわからないことであった。また、わらべうたの「ひらいた ひらいた」を「好き」と回答している児童は、約 7 割であった。そして「好きでない」と答えた理由として、覚えていないことを挙げた児童が多かった。これらのことから、児童は創作活動への興味・関心をもってはいるが、「日本のふし」に対する知識やそれを創作する技能をもっていないといえる。そこで、「日本のふし」の特徴や創作の方法についての指導が必要であると考えられる。

(3) 指導観

指導にあたっては、児童の発想を生かしながら、創作・表現・鑑賞の活動を組み合わせることにより、日本の音楽の旋律感や和声感、音色感、強弱感などに対する自らの感性を豊かにし、我が国の伝統音楽のよさを大切にしていこうとする態度を培うことができるようにする。

具体的には、「さがそう 日本のふし」の活動で、「わらべうた」を中心に児童の身近にある日本の音楽を探すことを通して、「日本のふし」の旋律感に気づかせる。また、「ひびかせよう 日本のふし」の活動で、「さがそう 日本のふし」の活動で見つけた「日本のふしの音楽」を歌ったり、リコーダーで演奏したりすることを通して、「日本のふし」の旋律感・和声感を実感させる。そして、「つくってみよう 日本のふし」の活動では、「わらべうた」の構成音をもとに簡単な旋律と伴奏をつくり表現することを通して、「日本のふし」の旋律感・和声感をさらに深めさせる。

鑑賞では、児童が聞きなじみのある曲で日本の音楽の旋律感や和声感・音色感が伝わりやすい曲を聴取させることにより、日本の音楽に憧れを抱き、創作活動や表現活動に生かせるようにする。また、互いに聴き合ったり、録音して鑑賞したりすることにより、自他の表現を振り返り、日本の音楽をつくりだす喜びを感じさせたい。

5 主な教材

(1) 教材名

- 「うさぎ」(小学生の音楽 3 教科書 教育芸術社 p. 22) 日本古謡
(日本の楽器 日本の音 2 弦楽器より) CD
- 「さくら さくら」(日本の楽器 日本の音 2 弦楽器より) 日本古謡 CD

(2) 教材について

○ 「うさぎ」

江戸時代から歌われてきたわらべうたであり、明治 25 年「小学唱歌」(二)に初めて教材として掲載された。当時の子どもたちが身近な自然に親しみをもって素朴に歌った心情が伝わってくる。月のクレーターが描き出す影を「うさぎの餅つき」に例えて歌った優しい気持ちがうかがわれる曲で、子どもたちに情景を想像させることにより、親しみをもって歌ったり演奏したりすることのできる曲である。

この曲は五音で構成されており、副次的な旋律や簡単な伴奏を加えることが容易で、日本の音楽の旋律感や和声感を感じ取らせやすい教材といえる。

また、三味線による演奏は、児童がほとんど聴いたことの無い三味線の音に親しみを感じさせることができ、児童の日本の音楽の音色感を広げることができると思う。

○ 「さくら さくら」

明治 21 年に、文部省音楽取調掛が編集し、東京音楽学校(現在の東京芸術大学)が発行した「箏曲集」に始めて収められた。

同型の反復が多く、陰音階特有の流れをもった旋律であり、独特の味わいを感じ取ることのできる曲である。古くから日本に歌い継がれている曲で、現在歌われている歌詞は、昭和 16 年に「うたのほん」に掲載される折、口語体に改作されたものである。

箏による二重奏には、箏のさまざまな奏法が含まれ、美しい響きは、児童に日本の音楽への憧れを抱かせることができると考える。

6 指導の工夫

「さがそう 日本のふし」では、「月」に関する曲の名前を当てたり歌ったりした後、「うさぎ」を歌うことによって、「うさぎ」に親しみをもたせる。また、既習曲を歌ったり聴いたりする中で「うさぎ」のなかまを探させる場面では、メロディーのみを演奏することによって、「日本のふし」を感じ取ることができると考える。

「ひびかせよう 日本のふし」では、「さがそう 日本のふし」で見つけた「日本のふしの音楽」を歌ったり演奏したりすることにより、「日本のふし」の旋律感を実感させることができると考える。また、演奏する際には、「シ・ラ・ファ・ミ」の慣用句をオスティナートとして加えたり、構成音より二音を伴奏として加えたりすることを通して、和声感を実感させるようにする。

「つくってみよう 日本のふし」では、「わらべうた」の四音の構成音を使って一人一人がつくった短い旋律をグループでつなぐことを通して、簡単な「日本のふし」の旋律をつくることができると考える。さらには、伴奏音を加えることによって「日本のふし」の旋律感・和声感をさらに深めさせることができると考える。

「さくら さくら」や「うさぎ」の鑑賞では、箏や三味線の演奏を聴くことを通して、歌唱では感じ取れない和楽器の音色や響きの重なりなどを感じ取り、日本の音楽への憧れを抱かせ、我が国の伝統音楽のよさを大切にしていこうとする態度を培うことができると考える。

7 指導計画（6時間扱い）

- 第一次（2時間）既習曲や地域に伝わる「わらべうた」から「うさぎ」のなかまでである「日本のふし」の音楽を探すことにより、「日本のふし」の旋律感に気づかせる。
- 第二次（2時間）「日本のふし」の曲の歌唱やオスティナート・伴奏を加えた演奏を行わせ、旋律感や和声感を実感させる。
- 第三次（2時間）簡単な「日本のふし」の旋律をつくらせ、伴奏音を加えて演奏を行わせ、旋律感や和声感をさらに深めさせる。

8 評価計画

- 評価規準
 - ア 「日本のふし」による曲に関心をもち、進んで「日本のふし」の旋律や伴奏をつくらうとしている。（音楽への関心・意欲・態度）
 - イ 「日本のふし」の特徴を感じ取り、その特徴を生かした表現の仕方を工夫することができる。（音楽的な感受や表現の工夫）
 - ウ 簡単な「日本のふし」の旋律をつくることができる。（表現の技能）
 - エ 日本の音楽の美しい音色や響きを聴き、憧れを持つことができる。（鑑賞の能力）
- 評価方法
 - ア 教師による授業分析
 - a ビデオ b 録音 c 行動観察 d 表情や態度の観察
 - イ 学習者による授業分析
 - a 学習カードの記入（自由記述内容・四段階評定尺度法） b 感想・話し合い
- 題材の評価規準

【題材の評価規準及び学習活動における評価規準】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	「日本のふし」による曲に関心をもち、進んで「日本のふし」の旋律や伴奏をつくらうとしている。	「日本のふし」の特徴を感じ取り、その特徴を生かした表現の仕方を工夫することができる。	簡単な「日本のふし」の旋律をつくることができる。	日本の音楽の美しい音色や響きを聴き、憧れを持つことができる。
学習活動における具体的評価規準	地域に伝わる「わらべうた」や日本で長い間親しまれてきた歌を進んで歌おうとしている。 一人一人がつくった旋律の組み合わせ方や伴奏にする音の組み合わせ方について発言している。	「わらべうた」や日本に古くから伝わる音楽を聴いて、使われている音や終わり方、速度、曲の感じなどの特徴を感じ取っている。 速度や曲の感じを工夫して「日本のふし」による旋律を表現している。	「わらべうた」につかわれている音を組み合わせ、簡単な旋律や伴奏をつくる。 創作した旋律や伴奏をリコーダーや楽器を選んで演奏している。	和楽器による表現のよさや美しさを感じ取って聴いている。 友だちの表現のよさを感じ取って聴いている。

【題材の評価規準を導き出すために参考とした内容まとまりごとの評価規準及び評価規準の具体例】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱	○			
器楽			○	
創作	○	○	○	
鑑賞		○		○
評価規準の具体例	(歌)生活の中にある様々な歌や、長い間親しまれてきた唱歌、地域に伝承されている歌など日本の歌に関心を深め、学習に生かそうとする。 (歌)歌唱表現を聴いて同じように歌いたいという思いや願いをもち、進んで歌唱表現をしようとしている。 (創)友だちと協力して音楽づくりを進めようとしている。	(鑑)劇の音楽、管弦楽の音楽、郷土の音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の音楽を聴いて、それぞれの音楽の美しさや特徴を感じ取っている。 (創)様々なリズムや旋律、音の組み合わせを生かした表現の仕方を工夫している。	(創)言葉のリズムの組み合わせを生かしたり、音の組み合わせを工夫したりして短い旋律をつくっている。 (器)楽譜上で音を確認しながら短い旋律を視奏している。	(鑑)音楽表現のよさや美しさを感じ取りながら、様々な楽曲を聴いたり、範唱や範奏、友だちの表現を聴いたりする。 (鑑)いろいろな種類の楽器や声の組み合わせによって生まれる響きの広がりを感じ取って聴く。

【具体的評価規準におけることと判断される状況への働きかけ】

働きかけ	地域に伝わる遊び歌を歌って遊ぶことにより、歌うことへの抵抗をなくす。 一人一人の考えを出し合い、それぞれのよさを尊重するように本人やグループを指導する。	階名で歌ったり、終わりの部分を取り上げて演奏したりすることにより、特徴をとらえやすくする。 グループの友だちの演奏に注意を向けるように話したり、いっしょに練習したりする。	ふしづくりに使う音を二音にし、口でふしをいろいろ唱えさせた後、選ばせる。 つくった旋律を暗唱させたのち、リコーダーでゆっくり演奏するようにさせる。	本人との会話から、気づいていることを明確にさせるようにする。 自分たちの演奏と比べながら、他のグループのよさを見つけるようにアドバイスする。
------	---	--	--	---

【具体的評価規準におけるAと判断するキーワード】

キーワード	☐ 進んで声を出している ☐ 授業外での日本の歌さがし ☐ グループ内での積極的な意見提案 ☐ 友だちのアイディアの実現への努力	☐ 聴き取った特徴を積極的に発言している。 ☐ 聴き取った特徴を具体的に記述している。 ☐ こだわりをもった練習 ☐ 演奏で工夫したことが具体的に記入されている。	☐ リズムや音形の工夫 ☐ 終わり方を意識した旋律の組み合わせ ☐ 何度やっても正確 ☐ 美しい音色や息の吹き込み方などの表現の追求	☐ 多くのよさを発見し、発言している。 ☐ 多くのよさを記述している。 ☐ 集中して聴いている。 ☐ 友だちのよさが気づきとしてしっかりと書かれている。
-------	---	--	---	---

9 指導と評価の計画（全6時間）

次	教材	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点	具体的評価規準	評価方法
第一次（2時間）	うた「うさぎ」などわらべ	☐ 「うさぎ」のなかまである「日本のふし」の曲をさがすことを通して、「日本のふし」の特徴に気づく。	☐ 「月」に関するイントロクイズや曲名あてクイズをする。 さがそう 日本のふし ☐ 「うさぎ」の範奏を聴いた後、既習曲や知っている曲の中から「うさぎ」の仲間の曲を探す。 ☐ 「わらべうた」を歌ったり、リコーダーで演奏したりする。	☐ 「うさぎ」の曲に関心を持たせる。 ☐ 歌詞からのイメージで判断しないように、旋律を演奏する。 ☐ 「うさぎ」と比較鑑賞を繰り返すことにより、旋律の特徴を明確化する。 ☐ 「日本のふし」を十分体感させる。	イ - (歌・鑑) ア - (歌)	イ - a b ア - a c d
第二次（2時間）	「うさぎ」「さくら」「さくら」	☐ 「うさぎ」の歌唱にオスティナート演奏を重ね、「日本のふし」の重なりを感覚的にとらえることができる。 ☐ オスティナートや伴奏を加え「うさぎ」や「さくら」「さくら」を聴くことを通して、「日本のふし」の旋律や重なりを感じ取る。	☐ 「わらべうた」を歌って遊ぶ。 ひびかせよう 日本のふし ☐ 「うさぎ」の歌にリコーダーで「シ・ラ・ファ・ミ」の副次的な旋律を加えて演奏する。 ☐ グループの演奏を聴き合う。 ☐ 「うさぎ」に「ミ」と「シ」による伴奏を加えて演奏する。 ☐ 「うさぎ」の演奏を録音して聴く。 ☐ 三味線による「うさぎ」を聴く。 ☐ 箏による「さくら さくら」の演奏を聴く。	☐ ゆったりと歌わせることにより、「わらべうた」の速度や雰囲気を感じさせる。 ☐ グループごとに練習することにより、リコーダーの旋律を近くで感じさせる。 ☐ リコーダーと伴奏を先に合わせ、ゆったりとした速度に慣らさせた後、歌と合わせる。 ☐ 「うさぎ」は速度や旋律の感じなど似ているところと音色や重なりなど違うところに気をつけて聴かせる。 ☐ 箏の余韻のある音色の重なりを感じ取らせるようにする。	イ - (器) イ - (器) エ - (鑑) エ - (鑑)	ア - a c ア - a c ア - b d イ - a b ア - d イ - a
第三次（2時間）	「さくら」「さくら」	☐ 「わらべうた」の構成音をつかって簡単な旋律をつくり演奏することができる。 ☐ グループごとに作った旋律に簡単な伴奏を加え、「日本のふし」としての表現の仕方を工夫して演奏することができる。	つくろう 日本のふし ☐ 「わらべうた」の構成音から音を選び、一人一人が4 / 4 拍子一小節分の旋律をつくる。 ☐ グループごとに作った旋律をつなぎ、終わらせ方を考える。 ☐ つくった旋律を速度や音色に気をつけて演奏する。 ☐ つくった旋律に「ミ」と「シ」で伴奏をつくる。 ☐ リコーダーの旋律に伴奏の音を加えて演奏する。 ☐ 速度や音色だけでなく、終わり方にも気をつけるよう表現を工夫する。 ☐ グループごとに演奏を聴き合う。 ☐ 「曲集 日本のふし」として、演奏を録音する。	☐ 「シ・ラ・ファ・ミ」の四音から音を選ばせる。 ☐ リコーダーで演奏しながらつくらせた後、カードに記入する。 ☐ これまで歌った「わらべうた」や鑑賞した曲の終わり方を参考にさせる。 ☐ 旋律を滑らかにつなげて演奏できるよう気をつけて練習させる。 ☐ 「うさぎ」のときに演奏した伴奏のリズムを基本に考えさせる。 ☐ 伴奏にふさわしい音色を考えて楽器を選ばせる。 ☐ 「日本のふし」の特徴を思い出させ、自分たちの演奏を振りかえさせる。 ☐ 他のグループの表現のよさを認められるように言葉かけをする。	ウ - (創) ア - (器) ウ - (器) ウ - (創) ウ - (器) イ - (器) エ - (鑑)	ア - c イ - a ア - c d ア - a c イ - a ア - c イ - a ア - a c イ - a ア - b d イ - a b

10 本時の学習（第三次 第1時）

○ 本時の目標

「わらべうた」の構成音をつかって簡単な旋律をつくり演奏することができる。

○ 本時の評価規準

ウ - , ア - , ウ -

○ 学習指導の展開

学習内容と主な学習活動	指導上の留意点（学習活動における具体的評価基準） （評価方法）
1 学習の雰囲気をつくる。 ・「とおoryんせ」「ひらいた ひらいた」「なべなべそこぬけ」を歌って遊ぶ。 2 前時の学習を振り返る。 ・「うさぎ」の歌唱に、リコーダーのオスティナートと鉄琴の伴奏を加えて演奏する。	○ ゆったりとした速度で、優しい歌い方をするように声かけをし、本時の雰囲気が出るようにする。 ○ 速度や終わり方、音色に気をつけて演奏したことを想起させ、表現に生かすようにさせる。
つくろう 日本のふし	
3 「シ・ラ・ファ・ミ」の四音から音を選び、一人が4 / 4 拍子1小節分の旋律をつくる。 4 グループごとにつくった旋律をつなぎ、終わらせ方を考える。 5 つくった旋律を速度や音色に気をつけて演奏する。 6 グループの発表を聴き合う。 7 次時の学習を確認する。	○ リコーダーで演奏してふしづくりを行わせた後、カードに記入させる。（ウ - ）（ア - c , イ - a） ○ ふしを書いたカードの並べ方をいろいろ変えてリコーダーで演奏し、よりよい旋律を選ばせる。（ア - ）（ア - c d） ○ これまで歌った「わらべうた」や鑑賞した曲の終わり方と比較して、つくった旋律が終わった感じになっているか考えさせる。 ○ 旋律を滑らかにつなげて演奏できるよう気をつけて練習させる。 ○ 「日本のふし」の特徴を生かして表現するように、速度や音色に気をつけさせる。（ウ - ）（ア - a c , イ - a） ○ 旋律の終わり方や演奏の速度・音色について気をつけて聴かせる。 ○ 本時につくった旋律に伴奏を加えて表現することを伝える。

【具体的評価規準におけるC判断される状況への働きかけ】

- ウ - ふしづくりに使う音を二音にし、口でふしをいろいろ唱えさせた後、選ばせる。
- ア - 一人一人の考えを出し合い、それぞれのよさを尊重するように本人やグループを指導する。
- ウ - つくった旋律を暗唱させたのち、リコーダーでゆっくり演奏するようにさせる。

【具体的評価規準におけるAと判断するキーワード】

- ウ - リズムや音形の工夫、おわり方を意識した旋律の組み合わせ
- ア - グループ内での積極的な意見提案
友だちのアイディアの実現への努力
- ウ - 何度やっても正確
美しい音色や息の吹き込み方などの表現の追求